

環境分野における
「今後さらに取り組むべき課題」について

平成25年12月12日
環境ワーキンググループ事務局
座長 住 明正

今後取り組むべき課題についての意見

●分野共通事項

具体的な行動につながるような提案を行う

- 世界を視野に入れ、特にアジアに目を向ける。
- アジアは、今後の発展が予測される地域であり、グリーンな開発が可能な地域である。同時に、様々なテクノロジーが普及しておらず、昔の日本の状態（発展途上で環境汚染が深刻）の地域がたくさんあるので、そこに日本の技術を適用する。（海水を淡水に変換する非常に小さいシステム等）
- 日本については、すでに技術があるので社会システム技術の開発などの観点での議論を中心におこなう。
- 環境は、サイエンスの観点からも重要。
- 環境リスクマネジメント、リスクコミュニケーションがより重要になってきた。
- 事業を行うにしても長期的ビジョンで環境について考えないと世界で戦えない。
- 規制の根拠となる基準等をきちんと技術的なデータや根拠に基づいて議論すべきである。
- 社会実装という視点、具体的な実施を視野に入れた対策が重要。

今後取り組むべき課題について（分野別）

●気候変動対応

- －気候変動に関する地球観測データや予測データを、アジアの発展途上国での生活や、開発、行政に利用できるシステムを考えたかどうか。特に、個人へのデータ配布の可能性を考え、新しい社会像を提示する。
- －環境を語るうえで、生態系に関して取り上げないわけにはいかない。出口指向の観点から厳しいが、次期基本計画に資する観点で、気候変動対応の一部で議論を行う。
- －日本においては、今後人口減少に伴い、集合住宅が増え空地の増加などが見込まれるので、少子高齢化社会を見据えて、地域開発を、コンパクトシティや、生態系の回復を“都市農業”の視点でとりあげるなどの様々な観点で、今後取り組むべき課題として議論する。

●資源循環・水環境・土壌環境分野

- －環境バイオテクノロジーは、資源循環や水環境、土壌環境等幅広い分野に関連している。
- －土壌浄化だけでなく土地利用の観点からも議論をおこなう。
- －事業者として、水処理を行う際には固形物＋廃棄物が出るので実際には水処理と廃棄物処理が一体化しており、単に水処理だけというわけではなく廃棄物処理等他の分野と併せて考える必要があることから、ある程度分野横断的な議論が必要。
- －日本では水はきれいであって当たりまえで、そのうえで水処理時に発生する排熱の回収などの省エネ技術があり、その辺りの省エネの分野は環境WGで議論する。